

令和4年度

研究集録

第60号

書

埼玉県連合教育研究会
埼玉県書写教育研究会

目 次

あいさつ	会 長 堀 越 敦 ……	2
埼玉県書写教育研究会事業報告（令和4年度の概要）		2
〈埼玉県連合教育研究会研究発表〉		
・第1学年における書写指導の充実をめざして		
三郷支部 三郷市立吹上小学校 西 川 友 貴 ……		6
・書字文化に親しみ、尊重する態度を育てる書写指導		
三郷支部 三郷市立南中学校 遠 山 亮 ……		9
〈埼玉県書写教育研究会研究発表〉		
・主体的に学習に取り組むことができる書写指導		
白岡市立西小学校教頭 黒 川 昇 ……		14
・主体的に取り組む、文字意識を高める書写の授業を目指して		
白岡市立白岡中学校教諭 佐々木 ともみ ……		17
・低学年における 日々の学習指導に生かせる書写指導を考える		
入間市立藤沢小学校教諭 高 津 亜季子 ……		20
・書くことの喜び知り、丁寧に書く力を身に付ける指導		
入間市仏子小学校教諭 花 岡 恵美子 ……		21
・作品と対話する書写学習（高学年）		
入間市立宮寺小学校教諭 佐 藤 容 子 ……		22
・生徒が主体的に考えて書こうとする書写指導		
入間市立黒須中学校教諭 小 林 あいり ……		23
・ICTを活用した書写指導		
入間市立上藤沢中学校教諭 八 木 栄 治 ……		24
・行書の指導と学習意欲の向上 ～ICT・水書・話し合い活動を活用して～		
入間市立野田中学校教諭 武 井 成 臣 ……		25
・複式学級におけるICTを効果的に使った授業		
神川町立神泉小学校教諭 伊 能 純 枝 ……		26
・字形を整えて丁寧に書く書写（書きぞめ指導について）		
神川町立神川中学校教諭 丸 山 久 美 ……		29
埼玉県書写教育研究会役員表		32

書字文化を育む書写教育

埼玉県書写教育研究会長 堀 越 敦
(行田市立行田中学校)

平成29年告示の学習指導要領がすでに全面実施となっておりますが、各学校では、新学習指導要領に基づいた指導について、不断の学びをしながら授業改善を行っていることと存じます。その一方で、国のGIGAスクール構想による一人一台端末の導入等により、児童生徒が文字を書く機会が減少しており、書字文化が失われてしまうのではないかという懸念も拭い切れません。そこで、今年度の研究主題を昨年度に引き続き、「書字文化を育む書写教育」としました。

今年度、本研究会では、特に小学校低学年の水書用筆を用いた指導方法や文字文化に興味をもたせる指導等について、実技研修会や授業研究会などを通して教員の指導力の向上を図りました。

8月3日には三郷市立彦糸小学校を会場に、夏季実技研修会を3年ぶりに開催しました。参加人数を制限するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、冷房の効いた広い体育館で実施することができました。午前中は「書写指導の基本」として、書写授業の進め方、水書用筆を使った授業、ICTの効果的な活用方法、毛筆による筆使いの練習などの研修、午後は「書きぞめの基本」という内容で、今年度の書きぞめの課題の書き方について、実技を中心に研修を行いました。

なお、授業研究会については、感染症拡大予防のため、今年度も研究収録での誌上発表としました。三郷市に執筆いただき、素晴らしい実践を発表してくださいました。

結びに、平素より埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の皆様に御指導を賜り、また各地区の先生方の御協力に厚く御礼申し上げます。今後も新学習指導要領の趣旨に沿った書写授業の創造と効果的な指導方法の普及を目指し、取組を充実させていく所存です。

書写教育研究会事業報告

(令和4年度の概要)

1. 役員会の概要

(1) 4.27 (水) 理事会

県民活動総合センター

○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議

(2) 5.13 (金) 総会・研究協議会・講演会

○総会・研究協議会・講演会

(3) 6.1 (火) 常任理事会

【リモート】

○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会

○本部事務分担並びに計画

○県書きぞめ展覧会語句選定・

開催要項案作成

(4) 6.24 (金) 理事会

戸田市文化会館

○県硬筆展覧会作品審査会

○県書きぞめ展覧会開催要項案審議

(5) 10.4 (火) 理事会

県民活動総合センター

○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議

(6) 11.16 (水) 常任理事会

飯能市民体育館

○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会

○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成

(7) 1.25 (水) 書きぞめ審査会

飯能市民体育館

○県書きぞめ展覧会作品審査会

2. 研究発表会の概要

(1) 小中高等学校書写書道教育研究協議会

【紙上開催に係る資料を送付】

○期 日 令和4年5月13日 (金)

○研究発表者・発表テーマ

①「小学校低学年の水書指導について」

深谷市立常磐小学校

下山 幸子先生

②「主体的・対話的で深い学びの具体化

を図る書写授業の実践」

川口市立安行東中学校

大野 絵美子 先生

○講 演

・ 講 師

文教大学 非常勤講師

萩田 哲男 先生

3. 研修会の概要

(1) 実技研修会

〔三郷地区〕

(2) 埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会

〔三郷地区〕

(3) 各地区書写実技研修会・授業研究会

4. 展覧会の概要

(1) 第 60 回 硬筆展覧会【誌上展】

○出品点数

・ 推薦賞	小学校	1 7 8 点
	中学校	8 3 点
・ 特選賞	小学校	1 0 3 1 点
	中学校	4 7 4 点
・ 優良賞	小学校	1 2 9 0 点
	中学校	5 9 4 点
	合 計	3 6 5 0 点

○課 題 次 頁

(2) 第 75 回書きぞめ展覧会 飯能市民会館

○出品点数

・ 推薦賞	小学校	1 1 4 点
	中学校	7 1 点
・ 特選賞	小学校	4 5 6 点
	中学校	2 8 6 点
・ 優良賞	小学校	5 7 2 点
	中学校	3 5 8 点
	合 計	1 8 5 7 点

○課 題 次 頁

(3) 令和 4 年度 教職員書道展覧会 〔中止〕

5. 研究刊行物

(1) 「研究集録」第 60 号の発行

※令和 4 年度埼玉県硬筆展覧会課題執筆者

小 1	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子先生
小 2	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子先生
小 3	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照先生
小 4	さいたま市立泰平小学校	齊藤 裕子先生
小 5	さいたま市立泰平小学校	齊藤 裕子先生
小 6	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照先生
中 1	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生
中 2	ときがわ町立玉川中学校	福田 英正先生
中 3	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生

※令和 5 年埼玉県書きぞめ展覧会課題執筆者

小 3	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子先生
小 4	ときがわ町立玉川中学校	福田 英正先生
小 5	ときがわ町立玉川中学校	福田 英正先生
小 6	北本市立東小学校	熊切 優子先生
中 1	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照先生
中 2	埼玉県書写書道教育連盟顧問	新井 和徳先生
中 3	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生

令和4年度 硬筆・書きぞめ展覧会課題

第60回硬筆展覧会課題

小一 しみず
つくえ
ほいす
はん

小二 なが山
いおり
友だちと土手を
さん歩きました。
シロツメクサの
さふさふした花が
れいでした。

小三 太田 ゆうすけ
六月七日(火)
そうじの時間に
ピカピカにしました。
教室が明るくなったよう
な気がします。

小四 鳴海 広幸
理科の時間に作った
モーターカー
電池の向きや
数を変えると
走り方が変わる
電気のふしぎな力

小五 高橋 英一
わたしたちが毎日使っている
漢字は、今から三千年以上も前
に、中国で生まれました。
日本では、その漢字をもとに
して、ひらがなやカタカナが作
られました。

小六 大和 風香
草木染めは天然の素材を用いた
染色です。野菜やフルーツの皮、花
や葉などの身近な物で染めること
ができます。
材料によって仕上りの色合いがち
がいが、家庭でも手軽に楽しめます。

中一 佐藤 英樹
拝啓
色彩あふれる紅葉の美しさに心弾む季節とな
りました。杉田先生は元気で過ごしてしょうか。
私は、楽しい学校生活を送っています。
さて、私たち吹奏楽部は、十一月三日に町の
文化祭で演奏することになりました。吹奏楽部の
一大イベントです。もし、お時間がありましたら
いらしてください。
またお会いできる日を楽しみにしております。
敬具

中2 川村 和実
2015年に国連サミットで採択
されたSDGs(持続可能な開発
目標)には17のゴールが設定さ
れています。
すべての人たちにとってよりよい
世界をつくるために、貧困や健康
教育、気候変動による影響などさ
まざまな分野での取組が始まっ
ています。
私たちの未来を守るために、自らの
行動を見直して美しい地球を
守っていきましょう。

中三 中村 美紀
はるばると海を越えて、この島に着いた時の私
の憂鬱を思い出しました。夜分のかき鳴るのか、鳥は
深い霧に包まれて眠っていた。私は目をしばた
いて、島の全貌を見すかそうと勢いのたつたある
磯の大きな岩が急な勾配を作っていくつむいくつ
も積み重なり、ところどころに洞窟の黒い口の
開いているのがおぼろに見えた。これは山であら
うか、一本の青草もない。
(太平洋 稚々島より)

第75回書きぞめ展覧会課題

小三 しぜん
高野 美歩

小四 なの花
和田 洋平

小五 明るくい声
田中 広子

小六 緑の大地
森川 美香

中一 書の文化
古田 和哉

中二 満天の星
滝口 勇太

中三 豊かな感性
栗田 桃子

令和4年度

埼玉県連合教育研究会 研究発表

三 郷 支 部

第1学年における書写指導の充実をめざして

三郷支部

三郷市立吹上小学校 西 川 友 貴

1 はじめに

本学級は1年1組22名が在籍している。入学してきた段階では文字を書く力に個人差があった。基準（お手本）を見ていても字形が取れず枠をはみ出してしまう児童が多くいた。近年、タブレット端末等の電子機器類の普及により、「紙に絵を描く」「紙に文字を書く」機会が減少傾向にあるためなのか、筆圧が極端に弱かったり、力を入れすぎて波を打ってしまったり力の加減が分からず苦戦する児童も多かった。姿勢を正して、正しい鉛筆の持ち方で書いている児童は、初めから整った文字を書くことができている傾向が見られた。

書写の指導は各学年で行われるが、姿勢や鉛筆の持ち方については主に第1学年および第2学年で行われている。小学校学習指導要領国語科の第1学年および第2学年の『書写に関する事項』においては、「ア姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。」と記されている。第1学年の国語科の教科書では、先頭ページに姿勢や鉛筆の持ち方について記載されている。このことから、書写を学習するにあたり、姿勢や鉛筆の持ち方は基本であり、学習のはじめにしっかりと指導することが大事であることが分かる。1年生の段階で、書写の学習の基礎基本を定着させていくために以下の取り組みを行った。

2 取組内容

①正しい姿勢の指導

初めに、学習の基礎である字を書く姿勢の指導を行った。

〈ただしいしせいのあいことば〉

- 1 あしはぺったん
- 2 せなかはぴん
- 3 おなかとせなかにぐうひとつ

4 かみをおさえて

5 さあかこう

以上のことばを唱えて確認することで文字を書く際の正しい姿勢の定着を図った。



また、文字を書く時以外でも（1）～（3）の合言葉を使い日常的に正しい姿勢を身に着けさせるように努めた。

②鉛筆の持ち方の指導



(1) えんぴつのもちかた（書写の教科書）

- 1 えんぴつつまんて
- 2 もちあげて
- 3 すうっとたおしてなかゆびまくら
- 4 きちんとじょうずにもてたかな

書写の教科書にある「えんぴつのもちかた」を唱えながら学級全体で確認した。なかなか定着しない児童には(2)(3)の方法を実践した。

(2) 鉄砲のポーズ

まず、鉛筆を持つほうの手で鉄砲の形を作る。親指と人差し指の間から、中指の方向に鉛筆を差す。そのまま親指と人差し指で鉛筆を挟む。このやり方で指導すると手順が少なく覚えやすい為、全ての児童には有効な声掛けであった。

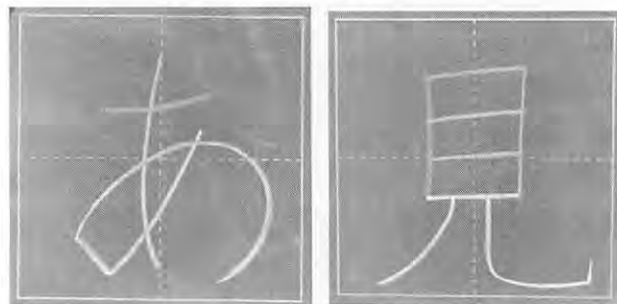
(3) ティッシュを握ったまま持つ

力が入りすぎてしまい、だんだんとグーで握ってしまう児童には、(1)(2)の持ち方の指導のほかに力の入れ方の指導も行った。鉛筆を持つほうの手のひらに、丸めたティッシュを入れ、それから鉛筆を持たせた。このとき、ティッシュの卵が割れないようにやさしくにぎるように伝えた。手全体に力が入り過ぎていた児童には非常に効果的であった。これにより、力の入れすぎが軽減され、美しい線が書けるようになった。

③筆順・字形の取り方の指導

小学校学習指導要領解説「国語編」には書写に関する指導内容・事項が何度も記載されている。特に低学年においては、姿勢・筆記具の持ち方・文形・丁寧さ・筆順の指導が重要である。文字の習い始めである低学年にも「筆順通りに丁寧に書くこと」が求められている。ひらがなドリルや漢字ドリルの色分けを活用し視覚的にもわかりやすく指導した。また、マス目を4つに分けた1つの部分を「1, 2, 3, 4の部屋」と呼び、1画1画始筆の場所を全員で確認して練習を行った。

字形のポイントを伝える際、マスの線を意識させることで整えて書くことができる児童が増えてきた。また、宿題の漢字練習などでも字形が崩れている児童には正しい始筆の場所に印をつけて修正を図った。



④運筆指導

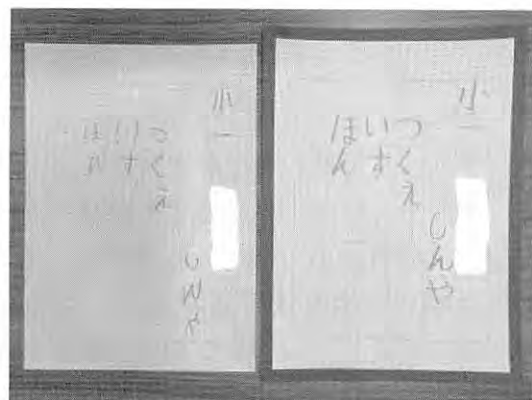
自由自在に鉛筆を動かす運筆力の向上を目指し、線のなぞり書きプリント等で手の動かし方を練習した。安定した文字を書くための「筆圧」の調節に効果があった。繰り返し行うことで、ひらがなで出てくる「はね」「はらい」の感覚をつかませることができた。

また、2学期に入り水書用筆を使用した運筆指導も行っている。硬筆の書写では理解するのが難しい筆圧の変化や点画を正しく理解させることができてきた。特に「はらい」については硬筆においてとめてしまう児童も、「はらい」を意識して練習することができた。筆を使って書くので、普段とは違う学習だと感じる児童も多く、あまり文字を書くことが得意でない児童も、繰り返し楽しみながら練習することができている。



⑤学校行事への取り組み

本校では、1学期に校内硬筆競書会、3学期入ってすぐに校内書きぞめ競書会がある。書きぞめの競書会では、1年生はフェルトペンで「たこあげ」の作品に取り組む。普段から丁寧に書く事を意識して取り組んできた成果を発揮する場として児童の意欲の向上を図ることができる。また、硬筆・書きぞめにおいて、1番初めに書いた作品を残しておき、最後の作品と比べることで金賞などの賞を取った児童だけでなく全員が自分の伸びを感じ達成感を味わうことができるよう指導を行っている。



3 成果と課題

- ・個人差はあるが、1年生の初めに丁寧に指導することで正しい鉛筆の持ち方や姿勢が身につく、長い時間集中して学習に取り組むことができる。
- ・学年が上がるにつれ、鉛筆の持ち方の癖がなかなか直らない。低学年での指導の大切さを改めて痛感している。入学前に既に鉛筆を使って、良くない癖がついている児童も少なくない。学校だけでなく、年度初めの保護者会で正しい鉛筆の持ち方や書くためのよい姿勢を伝え連携して進めていくことが必要である。
- ・水書用筆による運筆練習は、「はらい」や「はね」、送筆などの「点画の書き方」の練習としてはとても効果的であった。1年生の書写指導は、楽しみながら練習に取り組み、目に見える成果を感じさせられることが大切であると感じた。

4 おわりに

鉛筆を正しく持つことは、学力を支える基本であるとともに、日本の伝統文化の一つである「書」の基本である。小学校生活の第1歩である1年生の間に基本的な指導を徹底し、次の学年につなげていくことが必要である。また、低学年の児童は、文字を書くことが楽しいと感じることでより丁寧に書こうとする様子も見られる。これからも、細かい部分でも良さを見つけ、児童に伝えていくことで自信へと繋げる。そして、美しい字形で整った文字を書いていきたいという意識の向上を図っていく。

書字文化に親しみ、尊重する態度を育てる書写指導

三郷支部

三郷市立南中学校 遠 山 亮

1 はじめに

インターネットが発達した現代において、手書きで文字を書くという機会は著しく減少している。授業においてもICTの導入が始まり、教員でさえ板書よりパワーポイント等を使うことが増えている。社会的にも文書作成や連絡はICT機器を使用する場面がほとんどで、社会に出るにつれ、手書きで文字を書く機会はより少なくなっている。

しかし、手書きの文字には、それでしか表現できない人間らしい温かみがあり、忘れてはならないものである。教育基本法、学校教育法にあるとおり伝統と文化を尊重する態度を養うために書写の指導は欠かせないものである。

2 取組内容

①硬筆展、書きぞめ展への参加

本校では、例年5月と12月に全校で統一して硬筆展、書きぞめ展へ参加する形で硬筆、毛筆の学習を行っている。基準（手本）、指導のポイントをもとに指導を行い、書写の授業の中核を担っている。

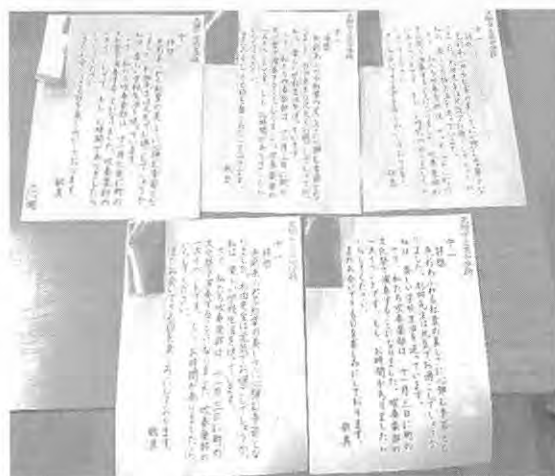
学年別の指導

1 年生

硬筆

1年生は硬筆をペンで書くということを初めて体験することになる。一律で硬筆ペンを購入し、楷書ではっきりとした字を書くことを意識させた。基準と同じ大きさに文字を書くことが困難な生徒が多かったため、大きさに注意するよう指導を行った。

また、硬筆の時間の約束として授業中は無言で取り組むことを徹底し、良い環境で文字と向き合うことを意識させた。



書きぞめ

1年生の書きぞめでは初めて行書体で文字を書くことになるため、まずは楷書と行書の違いについて学習させた。硬筆と同じく文字の大きさや線の太さが基準と合わない生徒が多いため、基準にメモを書かせたり、半紙を折らせたりして繰り返し練習を行った。

また、硬筆と同様に取組中は無言を基本とし、落ち着いた環境で文字を書くことを重視した。



2 年生

硬筆

2年生の硬筆では横書きで文字を書くことを意識させた。縦書きと違い、文字の中心が上下にブレやすいため、中心線や下の線に合わせて書くことを指導した。



書きぞめ

2年生では1年生で確認した行書での書き方について、その違いを実感させ、点画の連続や、筆脈がつながるよう意識することを指導した。文字の最終画を次の文字の一面目につなげるよう指導し、文字と文字のつながりも意識させた。

3年生

硬筆

3年生では、はじめて行書体で硬筆を行う。行書の特徴を理解させ、点画の形や方向、筆順の変化、点画の連続や省略に気を付けて書くように指導を行った。

書きぞめ

3年生では5文字がバランスよく収まるよう、漢字と仮名の大きさ、配列、余白などを意識するよう指導を行った。



④地域の行事へ参加

生徒の作品を三郷市で行われる市民文化祭に出展し、地域の行事に参加、発表の場としている。校内で有志を募集し、自由なテーマで書かせることによって、基準のとおりを書く書写の授業とは雰囲気異なる書道を楽しんでいる。



3 終わりに

生徒は硬筆、書きぞめの2つの取組から書写文化に触れ、親しんでいる。静かな落ち着いた環境で正対して文字に向き合うことで、日常的に使っている文字を書くことについて改めて興味関心を持たせることを目標とした。

一方、中学校の書写の授業は国語の授業内で行わなければいけない特性上、十分な時間が確保できているとは言い難い。その結果、年に2回の硬筆展、書きぞめ展のための書写になってしまっている現状がある。文字はほぼすべての人にとって一生書き続けていくものである。生徒が書写にもっと興味を持ち、その楽しさに触れられるよう、工夫した指導や、書写と国語を横断した授業を模索していく必要があるだろう。

【第1学年 国語科学習指導】

1 単元名 書きぞめ 行書『書の文化』

2 単元の目標

- (1) 行書の特徴を理解する。
- (2) 字の大きさや線の太さを意識しながら書く。
- (3) 毛筆を扱った書写活動に慣れ親しむ

3 指導計画

- (1) ガイダンス・それぞれの字の書き方指導 1時間
- (2) 『書の文化』・名前練習 3時間
- (3) 『書の文化』・清書 1時間

4 本時の目標

- (1) 本時の目標
 - ・毛筆に興味を持ち、その書き方を理解しようとしている 【主体的に学習に取り組む態度】
 - ・行書での文字の書き方を理解できる 【知識・技能】
- (2) 展開

学習活動	○教師の働きかけ	・指導上の留意点 ◇評価基準【評価の観点】 (評価方法)
1 書きぞめ基準（手本）の作成	○毛筆の授業の流れを指導する 持ち物の確認、基準の配布を行う。	
2 各字の要点を聞き、基準に書き込む	○指導書に従って要点の指導を行う。	◇行書での文字の書き方を理解できる【知識技能】(机間指導)
3 筆で基準をなぞる	○字の要点をもとに墨をつけない筆で筆の運び方を確認させる。	◇毛筆に興味を持ち、その書き方を理解しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】(机間指導)
4 名前の書き方の確認	○行書での自分の名前の書き方を確認する。	・漢字によっては行書になると点画が変化する場合があるので注意させる。
5 次時の予告	○次時は別教室でやることを確認する。	・休み時間のうちに準備が完了できるように伝えておく。

令和4年度

埼玉県書写教育研究会 研究発表

久喜・南埼玉支部

入間市支部

本庄支部

主体的に学習に取り組むことができる書写指導

白岡市立西小学校 教頭 黒川 昇

1 はじめに

本校は、ここ数年急激に児童数が増え、とても活気のある学校である。しかしながら学習規律が定着していない児童が多く、忘れ物や授業中の集中が続かないといった課題も見られる。また、学級数が増え、教室数が足りなくなったため自由に活動できる教室（オープンスペース）がすべてなくなってしまったために書写（書きぞめ）を行う場所を確保するのが難しいという状況である。

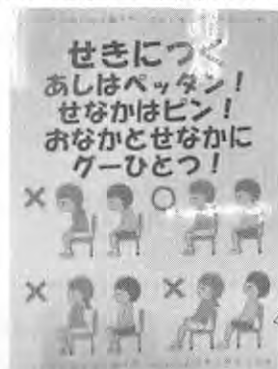
このような現状を踏まえ、本校では、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりをめざし、全教科で指導方法の工夫・改善を推進している。書写指導においても主に①基礎・基本の徹底②学習過程の工夫③ICT・教材教具の活用④学習活動の場や掲示の工夫の4つの手立てを継続的に行い、児童が意欲をもって学習に取り組むことができるよう指導を行っている。

2 具体的な取組

(1) 基礎・基本の徹底

【1・2年生の取組】

1, 2年生では、鉛筆の持ち方や書くときの姿勢を中心に指導をしている。低学年では、特に家庭の協力が大きいので、学年・学級通信等で継続的にお願いをしている。その結果、きれいな字を書こうという意欲や意識が高まっている。2学期末に行われた書きぞめ（フエル



ルトペンを使用)では、はねやはらいにも気をつけながら書くことができた。

姿勢を意識する合い言葉を掲示している。



正しい姿勢を意識している（2年書写）

【3・4年生の取組】

3年生から書写（毛筆）の学習がスタートし、児童は、興味をもって学習している。しかし、その反面、道具の用意や置き方、筆の持ち方等基礎・基本の定着が図れないということが大きな課題となっている。

そこで毛筆の入門編では、道具の置き方や使い方などをわかりやすく絵で表示したり、ICTを活用してその都度確認したりしながら繰り返し指導を行っている。また、書き方のポイントを指導する際は、毎時間拡大文字を掲示し、児童全員で確認をしている。

その結果、細かい指示や支援の場面が少しずつ減り、児童が主体的に用意をし、積極的に練習をする場面が増えてきた。特に初めて行われた書きぞめでは、競書会に向け意欲的に練習する場面が多く見られ、児童のやる気が高まった点は、大きな成果である。



【5・6年生の取組】

高学年は、低学年から学んできた学習を活用しながら習熟させていく段階である。専科教員を配置し、より技術の定着を図るためにきめ細かく指導を行っている。また、コロナの感染拡大状況次第ではあるが、外部指導者とのチームティーチングも検討している。

しかしながら、比較的積極的に学習に取り組む児童が多い反面、個人差が大きくなっているのも現状である。技術を高めると同時に苦手意識をもっている児童の意欲向上をどのように図っていくかが今後の大きな課題である。



静かに集中して活動している（5年書写）

（2）学習過程の工夫

本校では、「西小スタンダード」として、1時間の学習の流れを確立している。児童一人一人が「本時でどのような学習に取り組むのか」「どういうところに気をつけて書けばいいのか」などを意識することにより、自ら学習に取り組むことができるようになっている。

- ① つかむ（課題を把握する）
↓
 - ② 見通す（解決の方法・道筋を予想する）
↓
 - ③ 考える（自分で考え、行動する）
↓
 - ④ 深める（ペアやグループで見合い、
学び合い、深める）
↓
 - ⑤ まとめる・振り返る
（1時間の学習を振り返り、評価する）



つかむ・見通すの段階では、字のポイントを全員で確認し、どこに気をつけて書けばいいか課題を共有している。

【振り返り・感想】

- 字のバランスをとるのが難しかった。今度は、字の大きさに気をつけたい。
- 左はらいがうまくいった。今度は、右はらいも上手に書きたい。
- お手本をよく見て書いたらうまくいった。
- はねが上手にあってうれしかった。
- はらいが太くなってしまうので今度は細くしたい。
- 右はらいの筆の加減を工夫した。
- 字のバランスに気をつけながら今度も丁寧に書きたい。

（3）ICT機器・教材教具の活用

タブレットや大型テレビを活用したり、拡大文字を掲示したりしながら、児童が意欲をもって主体的に学習に取り組めるように工夫している。

① 拡大文字の掲示

書写専科が毎時間基準（お手本）の字を拡大し、黒板に掲示をし、ポイントを話し合っている。拡大した基準はとても見やすく、ポイントを書き込みながら課題を確認できるのでとても効果的である。

また、拡大した基準は、次年度も活用できるように丁寧に保存をし、ストックしている。教材研究の時間削減にも効果的である。



② ICT機器の活用

拡大文字の掲示に加え、手元を児童に見やすくするためにタブレットを活用し、映像をテレビ画面に映しながらポイントを確認している。筆の動きや細かい注意点が大きく見やすいので、児童の思考を助ける効果的な支援策になっている。



大型テレビで筆遣いを確認する



テレビ画面を通し、オンライン学習も行っている

机間指導に加え、ICT機器を活用することにより、児童一人一人へのきめ細かな指導を行うことができる。

(4) 学習活動の場や掲示の工夫

① 場所の工夫

本校では、教室数の不足から学習活動を行う上で場所の確保や工夫が必須となってくる。特に書きぞめ練習は場所をとるため、体育館を活用したり、クラスを半分に分け、特別教室を使ったりして練習を行ってきた。



② 書きぞめ競書会・校内書きぞめ展

練習の成果を発揮する場面として競書会を実施している。学年ごとに体育館に集まり、集中しながら書いている姿に成長と意欲を感じる。

③ 校内掲示

校内に県展に出品した作品を掲示している。児童はもちろん、保護者や地域の方々も楽しみにしている。



3 おわりに

「主体的に学習に取り組む児童の育成」は、本校にとって喫緊の課題である。様々な手立てを講じながら具体的な取り組みを実践しているが、一朝一夕に課題解決できるものではない。今後も様々な手立てを講じ、児童の学習に対する興味関心を高め、主体的に学習に取り組めるような書写指導を実践していく。

主体的に取り組み、文字意識を高める書写の授業を目指して

白岡市立白岡中学校 佐々木 ともみ

1 はじめに

2年目の行書である。1年前、「行書」を毛筆で書くことを伝え、教室のあちこちから戸惑いの声が聞こえてきた。既に硬筆では行書に取り組んでいた、特徴は理解していたが、やはり慣れない毛筆に、難しさと不安を感じていたと思われる。速く書くための書体である「行書」の基礎を、毛筆の学習を通して習得した上で、目的に応じて日常的に使えるようにさせたいと考える。また、ICT化の進む今、毛筆の授業が手書きの温かさに触れる機会になればと考える。普段触れることが少ないために、筆に苦手意識を感じている生徒でも主体的・対話的に学び、達成感を得られるような授業の進め方、教材の工夫を考えていきたい。生徒の実態に合わせ、目標を明確にした段階的な課題を設定し、指示を具体的にすることで、誰にでも取り組みやすい授業を目指したい。

2 生徒の実態

本校は、梨の産地として知られ、今年市制10周年を迎えた県東部に位置する白岡市の全校生徒305名の中規模校である。課題に進んで取り組む素直で真面目な生徒たちで、話し合いやスピーチなどにも積極的である。硬筆の授業にも熱心に取り組む、丁寧に作品を仕上げる事ができた。しかし、普段のノートやプリントなどの表記には、字形の乱れや誤字脱字が目立つ。以下は、2学年70名を対象に行ったアンケートの結果である。

①普段から正しい文字を書こうと意識している
はい 87.9% いいえ 12.1%

②普段から丁寧に文字を書こうと意識している
はい 67.2% いいえ 32.8%

・はいの理由

見やすくなるから 人に見せるものだから

後で見たとき分かりやすいから

きれいにかけるとうれしいから

・いいえの理由

時間がかかるから 面倒だから

無意識になってしまう

③書写（硬筆・毛筆）の授業が好きだ

はい 36.2% いいえ 63.8%

・はいの理由

書くのが楽しいから 得意だから

普段と違うものが書けるから

・いいえの理由

うまく書けないから 面倒だから

疲れるから 腕が痛くなるから

④書写の授業で学びたいこと

行書の書き方 きれいな字の書き方やコツ

字形の整え方 真っ直ぐ正しい字を書きたい

毛筆の筆遣い 筆の使い方 払い 書き順

文字のバランス ひらがなの上手な書き方

普段からうまく書けるようになりたい

この結果から、正しく丁寧な文字を書きたいという意識はあるが、書き方がわからない。うまく書くコツを知りたいが、書写の授業は面倒だと感じている生徒が多いことがわかった。

3 本校の研究課題との関連

本校では、「子供たちの可能性を引き出すための学びの実現を目指して～ICT機器を活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』～」をテーマに研究を進めている。以下は今回の単元における工夫の一例である。

【工夫1】ICTを活用した「個別最適な学び」のための工夫

・自分が必要なときに、書きぞめ手本に付属された参考動画や授業者からi-PadにAir dropされた書き方の動画を見て、書き方の参考にする。

【工夫2】ICTを活用した「協働的な学び」のための工夫

- ・モニターに拡大された文字を見て、行書の特徴を視覚的に捉え、気づいたことを話合う。

4 実際の取り組み

(準備を含めて5時間扱い)

＜第1時 準備＞「基準（手本）の文字の特徴を知ろう」

①「練習セット」を作成する。（20枚入りの画仙紙の袋に、練習に必要な以下のものをまとめる。）

- ・基準（中心線や線のつながり、字形など、気づいたことを書き入れさせる。）
- ・かご字の練習用紙（基準を画仙紙サイズに拡大してかご字を作成し、B4サイズの再生紙2枚に分けて印刷したものを各2枚ずつ用意する。予め数字で筆順を、点線で筆脈を示しておく。）
- ・行書の名前手本（授業者が手書きしておく。）
- ・自己評価シート（反省と次時に向けての課題を毎時間記入させる。）

②モニターに拡大された基準の文字を見て、文字の特徴について気づいたことを話合う。楷書との違いに注目させるようにした。線のつながりや丸み、角度の変化に気づく生徒が多かった。

③さらに、基準付属のQRコードから参考動画を見て、気づいたことを話合う。

④話し合いや動画を見て気づいた注意点を、「参考手本」に記入する。



＜第2時＞「行書の筆使いに慣れよう」

①基本の点画を、授業者が楷書と行書で水書板に書くのを見て、楷書との筆使いの違いに

ついて気づいたことを話合う。始筆・送筆・終筆の筆圧のかけ方や穂先の通り道、線の向きなど、既習の内容を思い出しながら、楷書と比較して行書の筆使いの特徴を話合うことができた。

②行書の筆使いの特徴を意識しながら、B4サイズの再生紙に自由に書く。筆にたっぷり墨をふくませ、良く落として穂先を整え、筆の軸を良く立てて腕全体を使って書くように声をかける。再生紙は筆が滑りやすくにじみにくく、重ねて書くこともできるので扱いやすい。始筆・送筆・終筆の筆圧のかけ方や穂先の通り道、線の向きなど、行書の筆使いを意識しながら書こうとしていた。重ねて書けることを伝えると、紙が真っ黒になるまで繰り返し練習していた。



③かご字の練習用紙1枚目『満天』を指でなぞって、書き順や線の向き・長さ・太さを確認する。線の太さに合わせて指の当て方に強弱をつけてなぞると、筆を持ったときの筆圧のかけ方がわかりやすくなる。一筆書きでなぞらせると、線のつながりが意識できる。流れがつかめてきたところで、墨をつけた筆でなぞる。納得がいくまで何度も重ね書きして練習していた。



④練習した『満天』を白紙の再生紙に書く。なぞり書きのようにはうまく形が整わないように、改めて、筆を立てて腕を使って書くこと、穂先の通り道や筆圧、外形を意識するよう促

した。納得がいくまで自分から何度も書き直してみる姿が見られた。

⑤自己評価シートに本時の振り返りと次時への課題を記入する。



＜第3時＞「1本1本の線をよく見て書く」

①線の長さ・太さ・向きに注目して、前時の③④と同じ流れで『の星』を練習する。「の」の筆運びを「乃」と比較して示す。線の太さは筆圧で加減することを確認し、筆の弾力を生かして書くためには、軸を立てることが必要なことに気づかせる。穂先を紙に押しつけず、軽やかに筆を運ばせる。

②参考手本を指でなぞって前時の学習を振り返ってから、画仙紙に『満天の星』と最後まで書く。1枚目を書き上げたところで、1本1本の線の特徴に注目して基準と比べ、次に向けて改善するところを考えさせる。再生紙とは筆の滑りが異なり、にじみやすくなることに戸惑う様子もあったが、線の太さを意識して書こうとしていた。



③2枚目の画仙紙に書き、1枚目同様に振り返る。楷書とは異なる行書らしい丸みのある線の特徴やつながりにも注目して、振り返ることができた。

④自己評価シートに本時の振り返りと次時への課題を記入する。

＜第4時＞「線と線、文字と文字のつながりを意識して書く」

①授業者から Air drop された動画を見て、書き順や線のつながり、筆遣いを確認する。実

際に書いているところを見て、筆の運びの速さが変わること気づいた生徒がいた。今後は必要なときに見て参考にするよう伝える。

②点画の連続、省略や変化、筆脈を意識しながら、2枚目のなぞり書き練習用紙に書く。穂先を次の画の始筆につなぐように書いていくうちに、少しずつ行書らしい丸みや柔らかさが生まれてきた。

③画仙紙に書く。線と線、文字と文字のつながりを意識しながら時間いっぱい書く。「満」の3画目から4画目へのつながりを意識させるとさんずいの字形が整ってきた。「天」の3画目の左払いから4画目の右払いにつながるようになってきた。

④自己評価シートに本時の振り返りと次時への課題を記入する。

＜第5時＞「漢字とひらがな、本文と名前のバランスを考えて書く」(まとめ書き)

①前時の作品を互いに見合っ、用紙に合った文字の大きさと配列(行の中心・字間・余白・行頭・行末)、行書に調和する仮名の大きさや字形があることを知る。

②「まとめ書き」をする。用紙全体を見て、線と線、文字と文字のつながりはどうか、字形や配列はどうか、行の中心が整っているか、本文と氏名のバランスはどうか、振り返りを繰り返しながら時間いっぱい書く。

③自己評価シートに、取り組みの振り返りを記入する。多くの生徒の振り返りからうまく書けるようになった満足感が感じられた。

5 おわりに

明確な学びの目標をもって取り組み、自己評価を重ねながら自分で課題を見つけ考える「主体的」な学びを工夫していきたい。作品と向き合い、友達との話し合いを通して「対話的」に深く学ばせたい。中学校書写のねらいである文字を正しく整えて速く書く力を身につけ、学習や生活に役立てるために、今回の学習が生かされるものと考えている。速く書くための書体である行書の基礎を習得し、目的に応じて日常的に使えるように意識づけていきたい。

低学年における 日々の学習指導に生かせる書写指導を考える

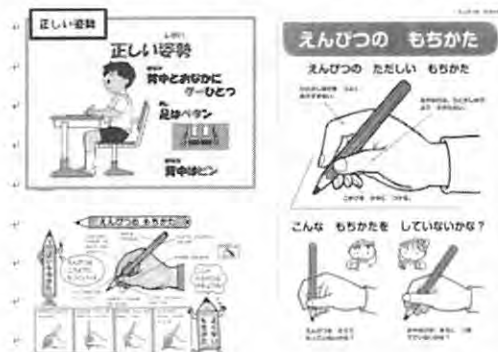
入間市立藤沢小学校 高 津 亜季子

1 はじめに

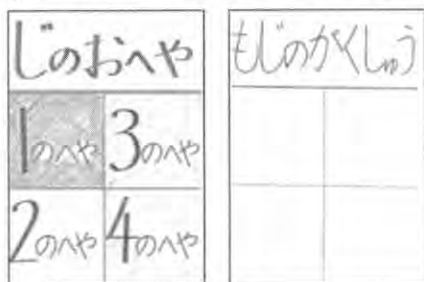
書写主任となって10年目。これまで、たくさんの児童に書写指導をしてきた。児童が、学習に向かう様子を見ると、鉛筆の持ち方や姿勢の悪さが気になり、書写の授業だけではなく、日々の授業のなかでも生かせるものがあれば、と考えてきた。今年度、2年生の担任となり、学年の書写の授業を担当している。そこで、低学年のうちに鉛筆の持ち方や姿勢を意識できるような取組を考えた。

2 掲示の準備

姿勢（グー・ペタ・ピン）や鉛筆の持ち方は、基本としてしっかり身につけさせたい。



また、文字のへやを意識するための表示も用意した。「もじのがくしゅう」は、20枚ほど用意し、黒板に貼って、主に新出漢字を学習するときに使用する。「じのおへや」は、児童が使用するマスに対応して見られるよう、黒板に掲示するとよい。



3 学習の中での指導

学校生活に慣れ、ひらがなをはじめ、たくさんの漢字を学び書き始める低学年の指導は、とても大切である。文字を書くときの姿勢、

鉛筆の持ち方など、基本をしっかり身に付けさせたい。掲示物のほかにも、光村図書のHPに、授業に役立つ資料として、「字を書くしせい」「えんぴつのもち方」の動画があるので、参考にし、児童に意識させるのに役立っている。

4 児童の変容

書写の学習だけではなく、日々の学習の中で常に書写指導を意識し、指導した。鉛筆の持ち方にも、少しずつ児童の意識の変化が見られるようになった。



〈指導前〉 〈指導後〉 〈指導後〉

また、文字の指導では、整った文字を意識させるため、点画や筆順だけではなく、画と画の間の指導も併せて行った。



〈指導前〉 〈指導後〉 〈指導前〉 〈指導後〉

気をつけるポイントを児童が意識し、達成したことを実感すると、次の意欲にもつながりやすい。また、各教科においても、整った文字を書こうと意識する児童が少しずつ増えている。

5 おわりに

日々の学習指導において、タブレットが導入され、文字を手書きする機会は減り、整った文字を書く意識も薄れている。しかし、児童は整った文字を目の前に提示されると、「あんなふうにはけるようになりたい」と高い意欲を持つ。児童の意識を高く保つために、指導を重ねていきたい。

書くことの喜び知り、丁寧に書く力を身に付ける指導

入間市仏子小学校 花 岡 恵美子

1 はじめに

本校は、西武線の仏子駅と元加治駅両方に近く、自然豊かな環境の中にある。

児童は、男女共とても仲が良く、みんなと一緒に学校や放課後に遊ぶ姿が見られる。また、学習に対しても分かるまで一生懸命に学習を重ねることができる力をもっている。しかし、「文字を丁寧に書く」ということに苦手さを感じている児童もいる。気が急いであってついつい雑に書いてしまうことが多い。そのため、丁寧に書くことの喜びを知り実践していくことのできる児童の育成を目指して以下のような取り組みを行った。

2 具体的な取り組み

①漢字学習

漢字の学習の指導の中で、ノートの書き方の指導を中心に、とめ、はね、はらいに気を付けながら、ゆっくり丁寧に書くことが出来るように指導を重ねている。丁寧に書くことができたノートには花丸をつけ、良いところを褒めることで、意欲をもって取り組むことができる児童が増えてきた。

②硬筆の練習

硬筆の学習が始まると、本校の児童は、とても意欲的に学習に取り組むことができる。授業で学習をした、ポイントに気を付けながら、家庭でも家庭学習として毎日練習をし、基準（お手本）に忠実な文字を書こうとすることができている。一番はじめに書いた作品をとっておき、練習を重ねて納得のいく作品が出来上がった時に比べることで、自分の頑張りを認めることができるようになり、丁寧に書くことの喜びを感じることができるようになった。



③書写・書きぞめ

低学年から続いている水書の学習で学んだ、とめ、はね、はらいを筆で書くことができる喜びを知ってもらうために、書写が始まる年度初めに、外部の講師の方を招いて、丁寧に書くポイントを教わっている。そのために、全員が緊張して習字に向き合うことができ、丁寧に書く気持ちが落ち着くなどの、書く喜びを感じることができるようになった。



作品と対話する書写学習（高学年）

入間市立宮寺小学校 佐藤 容子

1 児童の実態

高学年になると各教科の中で書き記す文字数が増え、「正しく、速く、きれいに書く」ことが目標となってくる。しかし、高学年児童の中には「上手に書けない。」という苦手意識が固まり、技能に差が広がってしまう時期でもある。

そこで、一人ひとりが自分で課題を立てて取り組み、その成果が感じられるような学習を進めたいと考えた。

2 具体的な取り組みと成果

(1) 自分だけの「お手本」作り

「基準（お手本）をどう見るか？」まずは、基準と向き合う（基準と対話する）時間を設定した。墨の黒い線と余白の白い部分の両方に着目し、気づいたことを書きこんだ。実際に定規や分度器で測って数値化したり、平行線や図形と捉えたりすることで、字の形や全体のバランスがつかめて書きやすくなった児童も多かった。



(2) 透明ボードを活用した比較



高学年では対話的な学習を推進するために、各教科でホワイトボードや透明ボードを活用し意見交換をしたり考えを深めたりしている。それを取り入れ、比較検討する（作品を通して友達と対話する）時間を設定した。

【透明ボードの使い方】

- マーカーで「かご字」を書く。
- ボードの上に半紙を重ねて、「かご書き」の練習をする。
- 書いた字の上に重ね、比較する。

児童は作品が書き上がると、透明ボードを上から重ねて、字の大きさや形、線の太さなどを比較していた。透明ボードを共有して使うことにより、児童同士で見合い考えを出し合う様子が見られた。互いに良い所をほめたり、違っている所を指摘したりする中で、次の課題を見つけことができた。



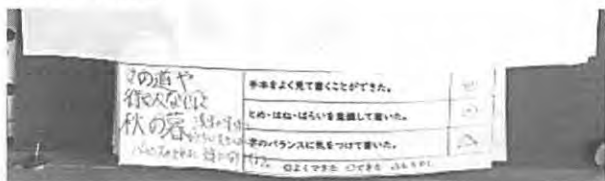
(3) 人材（ゲストティーチャー）の活用

書写の専門性が高いゲストティーチャーを招聘し、体験的に学ぶ（指導者と対話する）時間を設定した。直に腕の動かし方や筆の使い方などを体験し、身体で覚えていくことができた。



(4) 学習の振り返り

学習後は、振り返り活動（自分や作品と対話する）時間を設定した。観点と照らし合わせることで、自分のがんばりや課題を見つけることができた。対話する時間を持った結果、次につながる意欲と練習方法を選択する力がついた。



生徒が主体的に考えて書こうとする書写指導

入間市立黒須中学校 小 林 あいり

1 はじめに

今回の実践報告は中学2年生の授業である。書きぞめでは「満天の星」を書いた。

書写の授業では、お手本通りに、特徴を捉えて書くことが、基本的な目標だと思う。しかし、それだけでなく、何回も書く中で、自分の書く字に成長を感じてもらいたい、という思いもある。そのため、教師からの説明は少なめにし、教師と生徒、生徒と生徒で、より良い書き方を聴き合う時間を、少しではあるが設けた。

2 具体的な取り組み

(1) 全体計画

- 第1時 DVDを見て、書き方のポイントを押さえる。
- 第2時 実際に書きぞめを書いてみて、自分の課題を知る。
- 第3時 書道教室の先生にご来校いただき、ご指導いただく。
- 第4時 前回いただいたご助言を生かして、まとめ書きに向けて練習する。
- 第5時 ポイントを押さえて清書する。

(2) 第1時の授業

教室で、DVDを見て、書く時のポイントを基準（お手本）に書かせた。また、基準の上には、書きぞめの作品完成に向けての目標も書かせた。

この時間では、字の書き方には楷書、行書、草書の三つがあること。それぞれ、立つ、歩く、走るという動作に例えられるということを押さえた。

(3) 第2時の授業

実際に、書きぞめの道具を使って、書いてみる。この時間は、とにかく書いて、字の特徴を捉えることを目標とした。

書き始めてから20分後は、作品の見せ合い、アドバイスの共有等の時間を作った。その時には、クラスメイトからもらったアドバイスや、自分で発見したポイント等を、基準に書かせた。

(4) 第3時の授業

毎年来ていただいている、書きぞめ教室の先生にご指導いただいた。

「星」までバランスよく入るようにするためには、自分の体を動かして、書きやすい姿勢

を作ること、名前を大きめに書き、「満天の星」の迫力に負けないこと、全体的に右上がりに書くこと等のご助言をいただいた。

(5) 第4時の授業

前回、書きぞめ教室の先生からいただいたご助言を、全体で共有してから練習を始めた。

次回、まとめ書きを提出するので、静寂な中、集中して書かせることを意識させた。

(6) 第5時の授業

まとめ書きを書いて提出する時間とした。

書き方の分からないところや、できた作品の評価等を積極的に聴く生徒が多かった。

この時間以降の宿題として、振り返りシートを書かせた。項目は「目標に向けての達成度」「作品完成に向けて意識したこと」「作品完成に向けて成長したこと」「今後の生活で意識したいこと」である。



3 おわりに

振り返りシートの項目「作品完成に向けて意識したこと」では、「画どうしのバランスに気を付ける。」「文字同士の位置関係を整える。」「始筆に気を付ける。」「作品完成に向けて成長したこと」では、「対象（字）をよく見て観察する。」「行書の画同士のつながり。」「今後の生活で意識したいこと」では、「行書・楷書を使い分け、字をきれいに書く。」「漢字のとめ・はね・はらいを意識する。」等の文章が見られた。

反省としては、観点をもう少し細かく設定して、聴き合う環境を作れたらよいと感じた。これからも研鑽を積んで、生徒が主体的に書こうとする授業作りをしていきたい。

ICTを活用した書写指導

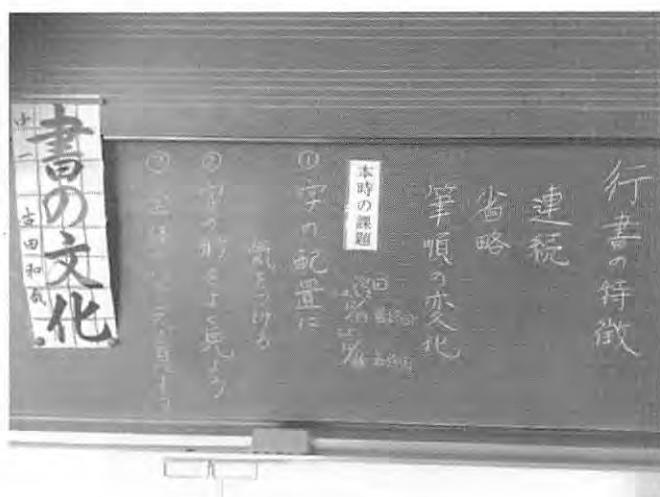
入間市立上藤沢中学校 八 木 栄 治

1 はじめに

1人1台のタブレット端末が、令和2年度に配備された。この状況を受けて、授業にICT（タブレット端末）を活用して指導する能力が、必要とされている。書写指導でも実践できるような取り組みを行った。

2 具体的な取り組み

(1) 字画の流れを意識させる。



1年生より、毛筆（書きぞめ）では行書になる。行書では、楷書との違いを理解させ、字画の流れを意識させた。

第1時では、用紙を準備してなぞることをさせ、字画の流れを確認させた。

(2) 基準（手本）と同じ字を書くことができるために映像を使って視覚的に学ばせる。



映像を活用し、字画の流れや筆使い方を視覚的に学ばせ、実際の筆脈を理解させることもできた。基準(手

本)にも掲載されているQRコードも活用し、主体的に生徒が学ぶこともできた。

(3) 毎時の振り返りだけではなく、自身の作品をタブレットに記録する。

自ら書いた作品を提出するだけではなく、ミライシードという学習のもので、振り返りだけではなく、写真に撮り、提出させた。保存ができ、自らの成長を知る機会となっている。



3 おわりに

ICTを活用すれば、直ぐには成果を見込める訳ではないが、一つの手立てとして今後も活用していきたい。タブレットに3年間の記録を残すことで生徒の大いなる成長を期待したい。

行書の指導と学習意欲の向上 ～ ICT・水書・話し合い活動を活用して～

入間市立野田中学校 武 井 成 臣

1 はじめに

本校の位置する入間市北部は、古くから行商路が通り、文化的交流が盛んな地域である。したがって、地域住民の書に対する親しみも深く、長年指導している書道塾も複数ある。

一方で、「行書は難しそうに感じる。」「そもそも、書体の違いがよくわからない。」という生徒も、学年の3分の1程度存在する。



そこで、書体の面白さや美しさを感じ取らせるとともに、意欲的に行書の学習に向かわせるため、書きぞめの指導を通して次のような取組を行った。

2 具体的な取組

- (1) 書の伝統を踏まえ、楷書、草書と比較したうえで行書の特徴を捉えさせる。
- (2) 水書用具やタブレット端末を活用して、行書の点画の連続や字形の変化に適した筆使いを確かめさせる。
- (3) 生徒自身が書いた文字について、その良さや努力した点を話し合い、相互に評価させる。

3 単元全体の流れ

時	主な学習活動
1	・行書の特徴について、楷書・草書と比較しながら知る。 ・身近な漢字を行書で書く。(硬筆)
2	・基準(手本)について、教師の説明を聞き、全体・各文字の書き方のポイントを知る。

3	・水書用具で、毛筆の性質や行書に適した筆使いを知る。
4	・書きぞめに取り組む。
5	・タブレット端末を用いて範書の動画を視聴し、筆使いを繰り返し確認する。
6	・水書用具を使って文字や筆画を繰り返し練習する。 ・タブレット端末で書いたものを撮影・記録しておく。
7	・ワークシートやタブレット端末の記録をもとに相互に評価し合う。 ・相互の評価を受けて自己評価を行う。(話し合い)

4 おわりに

水書用具について、生徒は予想以上に積極的に活用していた。準備の簡単さや繰り返し書ける便利さなどの特長がよく発揮されていた。

一方、ICTの活用として、タブ



レット端末で動画を見ながら筆使いを確認する姿は、思ったほど見られなかった。生徒にとっては、タブレットを操作しながら毛筆で文字を書くことは慣れない面が多く、煩わしさを感じてしまったのかもしれない。

話し合い活動については、とても活発に行っていた。生徒相互の評価は、自己評価を言語化して記述する上でも有用であると感じられた。

今後も、書の文化に対する生徒の意欲と関心を高めながら、書字技術を向上させるため、様々な方法を取り入れていきたい。

複式学級におけるICTを効果的に使った授業

神川町立神泉小学校 伊能純枝

1 はじめに

本校は、神流川を挟んで群馬県と隣接する神川町南部に位置し、全校児童18名、複式3学級の埼玉で最も小さい学校である。

高学年は、6年生1名、5年生2名の合計3名で授業を行っている。

児童の人数が少ない利点は、個々に目が行き届き細かい指導ができることである。反対に人数が少ないため、児童の間で多様な意見が出にくく、多角的に見ることは難しい。

また、複式学級の授業では、同じ時間に同じ教室で、学年ごとに違う字を扱っていく必要がある。各学年の単元の目標や課題が違う中で互いにに関わり合い効果的に学び合う手立てとして、タブレットや電子黒板等のICTを使った取組を行った。

2 具体的な取組

(1) 5年生と6年生の目標の共通点と相違点

	目 標 等
5年 (道)	○部分の組み立て方「によう」〔知技(1) (3)エ(イ)〕 「しんによう」の書き方や部分の組み立て方を理解して書くことができる。
6年 (湖)	○部分の組み立て方「三つの部分」〔知技(1) (3)エ(イ)〕 三つの部分で組み立てられた漢字の部分どうしの位置や大きさの関係を理解して書くことができる。

5年生と6年生の単元目標を比較してみると、ともに部分の組み立てを意識して書くことが目標となっている。5年生から6年生にかけて段階的に意識する部分が増えていることが分かる。

複式授業では、共通する目標（ここでは、部分の組み立て方）が同じであることを5・6年生に意識させた。



(2) 自分の字と手本を比べる

まず、5年生は「道」6年生は「湖」を書かせ、その後お手本と比べさせた。

中心線・始筆・終筆・止め・はらい等気になるところはたくさんあるだろうが、今回の目標の「部分の組み立て」について自分の字と基準（手本）を見比べ、互いに気づいたことや基準がどのようになっているかを考えさせた。

5年

①



②



6年



(3) 部分の組み立てを確認する

5年生は、2つの部分「首」と「し」、

6年生は、3つの部分「氵」・「古」・「月」がどのように組み合わさっているのか色分けをして考えさせた。



(4) 部分に気をつけながら書く

それぞれの部分の始筆の場所を確認してから書いた。

書いた字を基準と1枚目と比べてどのように変わったか。また、次に気をつけたいことは何かを3人で話し合った。

児童から、部分だけでなく、始筆やはらいにも気をつけて書かないときれいに見えないという意見や自分で書いているときはよく分からないといった意見がでてきた。



(5) 教科書会社の教材の活用

教科書には教科書連動コンテンツがのっている。QRコードをタブレットで読み取れば、始筆の置き方、運筆、止め方など基準がどのように書かれているのかを動画で見ることができ、自分の動画と比較して見ることができる。

(教科書会社の資料については、著作権の関係上、掲載しません。教科書会社「光村図書」HPをご覧ください。)

(6) タブレットを使って記録し、思考する

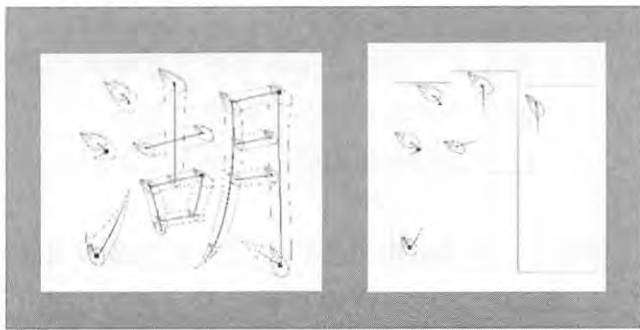
互いにタブレットで動画を撮り、電子黒板を使って共有させた。

動画を撮ることで自分自身では気づけなかったことを客観的に見ることができた。

また、動画をスローで見たり、必要なところを戻って見たりすることで、話し合いを目で確認しながらでき、理解が深まった。



(7)「かご書き・骨書き」「部分どうしの位置と大きさ」の練習



(8) 書写水書板での練習

教師用の水書板を床に置いて自由に練習できるようにした。半紙で練習するのもよいのだが、水書板であれば、半紙を入れ替えることなく何度も練習でき、時間短縮になる。

また、「はらい」や「始筆」、「終筆」などの運筆の部分練習も手軽に行いやすいと考えた。児童は、半紙・水書板とも自分が使いたい場面を選択して使った。

(9) 清書（まとめ書き）

これまでの試書を並べ自分の字の変化を確認しながら目標を決め、まとめ書きに取り組んだ。

互いに見合い、良い点と改善すべき点を確認することで、自信を持って次の作品作りに取り組むことができた。

5年



6年



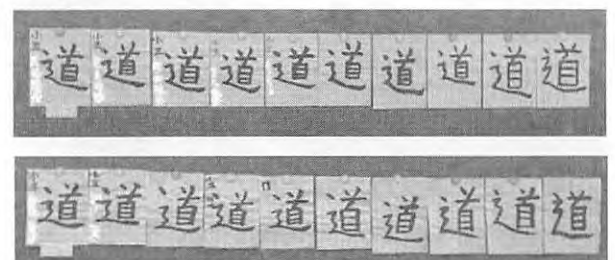
3 終わりに

本校は、児童の人数が少ないため、一人一人に対してきめ細やかな指導をすることができ、児童どうしの対話が少なく、多様な見方をさせることが難しい。

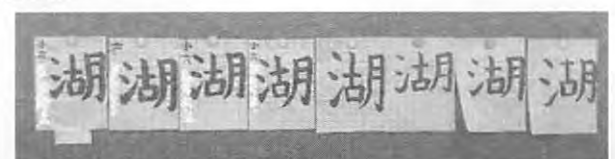
タブレットや電子黒板などのICTを使うことで、一人一人の様子を取り上げ、細かく見ることができた。さらに自分の記録をとることができ、ふり返りにも役立った。徐々に目標に近づいていく字を互いに褒め合い、次の目標も立てやすく、意欲にもつながった。

日々の授業で感じていることは、文字を書くことが苦手な児童も、美しい字が書けたらいいのという思いがあることだ。児童の苦手意識をどのように解消していくのかを考えると、スモールステップで分かりやすく達成できる目標を設定していくことがとても大切だと考える。児童自身が目標を見つけるための手段としてこれからもICTの活用方法を探っていこうと思う。

5年



6年



字形を整えて丁寧に書く書写（書きぞめ指導について）

神川町立神川中学校 丸 山 久 美

1 はじめに

神川町は、壮大な山が方々に見えるのどかな町であり、学校からの眺めも美しい。本校は、町内1つの中学校であり、今年度で開校59年を迎えた学校である。本校の生徒は、素直で落ち着いた学習態度で授業に臨んでおり、書写の授業においても硬筆や書きぞめなど意欲的に取り組む生徒が多い。

新学習指導要領において、中学校の書写指導におけるねらいとして、「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」と書かれている。すなわち、文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められている。それらを踏まえて本校の書写では「字形を整えて丁寧に書くこと」を目標として取り組ませている。

今回の実践報告では、本校の書写授業における実践を紹介する。その際の書きぞめの指導について、本校で工夫した点について述べていく。以下、実践報告を行う。



2 具体的な取り組み

(1) 生徒の実態について

書きぞめを行う前に生徒にアンケート調査を実施した。「書きぞめは好きですか」との質問に対して、多くの生徒が好きだと答えてい

た。好きと答えた理由は、「きれいな字を書くことが楽しい」、「最後まで書ききった時の達成感が好き」などの意見があった。また、「行書について知っていますか」との問いについては、大半の生徒が「知っている」と回答していたが、具体的な内容までを答えた生徒はほとんどいない状況であった。



(2) 書きぞめの授業において

行書の特徴を確認する。行書の特徴である以下の点について指導を行った。

- ①点画に丸みを帯びることがある。
- ②点画の方向や形が変化することがある。
- ③点画が連続することがある。
- ④点画が省略されることがある。
- ⑤筆順が変わることがある。

さらに、具体的な例を踏まえて指導を行った。



○行書の基本点画の書き方

例えば、横画の書き方については、「始筆は楷書に比べてやや浅く、緩やかに加筆する。」「始筆では長くとどめず、ゆったりと運筆する。」「終筆はやや軽く止め、次画へ向かってつながるように小さくはね出すことが多いので意識する。」など、具体的な指導を行った。そして、以下の点についても、指導した。

○その他の基本点画

「左払い」は右方向へ連続する左払いは、楷書のように遠くに向かって払うのではなく、次画に向かって連続するようにはねる。

「転折」は、やや丸みを帯び、その直後も曲線化する。

「右払い」は、楷書のように鋭く払わず、緩やかにやや丸みが出るように軽く止めて、離す。

「はね」は、はねのつく縦画はやや曲線化して、次画の始筆に向かって、緩やかにはねる。

○点画の変化

行書では速く書くことによって、点画の長さや方向に変化が生じることがあるので、楷書に比べ、筆脈がいっそう重要になってくる。よって、以下の点を確認した。

①終筆の変化

「左はらい」の週筆は軽く止めるか、小さな「はね」として次画へ連続するように書いていく。また、終筆を軽くはね、次の文字の一両目に筆脈をつなげるように書く。

②方向の変化

短い左はらいを横画にする。

③横画の長さの変化

運筆につれて速度が増すのが自然なので、短い横画から長い横画へと連続する。



○点画の連続

点画を連続して書く時には、筆脈を意識して書くことが大切である。連続する点画の基本は、①筆脈が出るもの、②筆脈の線で連続するもの、③前画の終筆と次画の始筆とが直接連続するもの、があることをおさえて指導した。

○点画の連続のしかた

同一方向の点画が3つ以上並ぶ場合は書く速度が上がるため、2つ目と3つ目が連続することが多い。むやみに連続させると読みにくくなるということも伝えた。

など具体的な指導を行うとともに、行書らしく書くためには、「筆の穂先をなるべく立て、緩やかに筆圧を変化させ画と画と連続させて、ゆったりと書くこと」を大切にさせた。

(3) ICT の活用



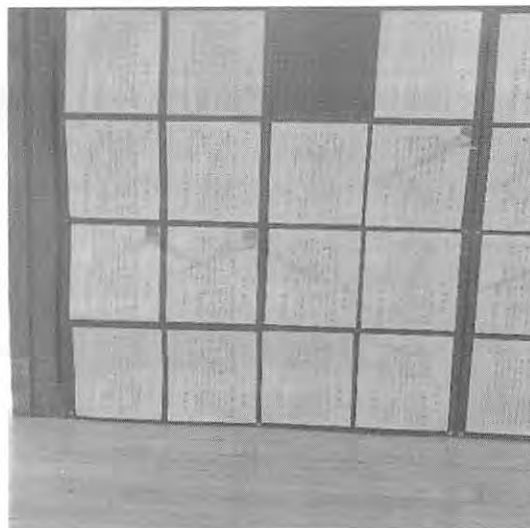
行書の基準（手本）動画を視聴し、点画の変化や連続性の書き方について特徴を見だし、自身の作品につなげた。一人1台のタブレット端末を活用することにより、学習に集中することができた。また、書き方のポイントや基準となる字体について調べる活動を通して学びを深めることができた。

書きぞめ基準のQRコードで読み取った動画の活用をすることにも取り組んだ。動画を好きなところで止めたり繰り返し視聴したりすることで、点画の変化や連続性の書き方について生徒一人一人の実態に応じたペースで考察し、書く活動を深めることができた。



(4) 本校における書写掲示

生徒の書写に対する興味・関心を高め、生徒が主体的に硬筆や書きぞめを行う工夫として、作品の掲示を行っている。どの学校でも行われていることではあるが、生徒が作品に触れる機会を意図的に作るために、掲示する場所についても生徒の目に触れやすい場所を選び、掲示を行った。人に見てもらう作品を作るという意識を持たせることで、授業への意欲も高まり、丁寧に作品を仕上げようとする意識が出てくるようになってきた。



3 終わりに

字を丁寧に書くことは、一朝一夕には身につかない。書写の授業だけでなく、全ての教育活動を通して、積み重ねることで身につけてくるものだと考える。そのためにも、字を丁寧に書かせる環境を整えて、日々の生活の中で子どもたちが主体的に実践できるようにしていくことが大切である。例えば、教室環境や学校の掲示物、指導したことの見届けと指導内容の徹底など、日ごろからの工夫を今後も実践していきたい。そして、今後も生徒の興味・関心を伸ばした指導を行っていく。

埼玉県書写教育研究会 研究集録

*発行者 会長 柳下 政浩

*編集委員 松井 直美
吉村真菜美

*発行日 令和5年3月10日

*印刷所 (株)三光堂印刷所